
A を可換環とする。

$A \setminus \{0\}$ が乗法群である時、 A を体という。

体は 2 つの演算それぞれで可換である。

.....
環 A に対して、 $A \setminus \{0\}$ が乗法群である時、 A を斜体 または 可除環 という。

斜体は乗法の可換を仮定しない。

.....
 F を体とする。直積集合 F^4 に成分毎の加法を定義することにより $(F^4, +)$ は加法群となる。

$p, q \in F \setminus \{0\}$ とする。 $(H_F(p, q), +)$ を加法群 F^4 とする。

$H_F(p, q)$ に演算 \cdot を定義する。

F^4 の基底を $\{1, i, j, k\}$ とする。 $(a_0, a_1, a_2, a_3) = a_0 + a_1i + a_2j + a_3k$

$i^2 = i \cdot i = p, j^2 = j \cdot j = q, i \cdot j = -j \cdot i = k$ とする。

$$(a_0 + a_1i + a_2j + a_3k) \cdot (b_0 + b_1i + b_2j + b_3k) \quad (1)$$

$$= a_0(b_0 + b_1i + b_2j + b_3k) + a_1i(b_0 + b_1i + b_2j + b_3k) \quad (2)$$

$$+ a_2j(b_0 + b_1i + b_2j + b_3k) + a_3k(b_0 + b_1i + b_2j + b_3k) \quad (3)$$

$$= a_0b_0 + a_1b_1i^2 + a_2b_2j^2 + a_3b_3k^2 + (a_0b_1 + a_1b_0)i + (a_0b_2 + a_2b_0)j \quad (4)$$

$$+ (a_0b_3 + a_3b_0)k + (a_1b_2 - a_2b_1)ij + (a_1b_3 - a_3b_1)ik + (a_2b_3 - a_3b_2)jk \quad (5)$$

$$= a_0b_0 + a_1b_1p + a_2b_2q - a_3b_3pq + (a_0b_1 + a_1b_0)i + (a_0b_2 + a_2b_0)j \quad (6)$$

$$+ (a_0b_3 + a_3b_0)k + (a_1b_2 - a_2b_1)k + (a_1b_3 - a_3b_1)pj - (a_2b_3 - a_3b_2)qi \quad (7)$$

$$= a_0b_0 + a_1b_1p + a_2b_2q - a_3b_3pq + (a_0b_1 + a_1b_0 - a_2b_3q - a_3b_2q)i \quad (8)$$

$$+ (a_0b_2 + a_2b_0 + a_1b_3p - a_3b_1p)j + (a_0b_3 + a_3b_0 + a_1b_2 - a_2b_1)k \quad (9)$$

2 つの演算を定めた $(H_F(p, q), +, \cdot)$ は環となる。

F を体、 $p, q \in F^\times$ とする。 $a^2 = p$ を満たす $a \in F$ が存在するとき、 $H_F(p, q)$ は斜体でないことを示せ。

.....
 $a^2 = p \in F^\times$ より $a \in F^\times$ である。つまり、 $1 + a^{-1}i \neq 0, 1 - a^{-1}i \neq 0$ である。

$$(1 + a^{-1}i) \cdot (1 - a^{-1}i) = 1 - (a^{-1}i)^2 = 1 - (a^{-1})^2i^2 = 1 - (a^{-1})^2a^2 = 0 \quad (10)$$

これにより $1 + a^{-1}i, 1 - a^{-1}i$ は零因子である。

よって、 $H_F(p, q)$ は零因子を持つ環であり、斜体ではない。
